

トゲチョ観察会&学習会inばんげ【オータム】

10月21日 火曜日 雨天決行

PM1:00 開会

集合場所 会津坂下町三谷・広瀬神社
のち、三谷集落、佐藤義磨さん宅（徒歩で）

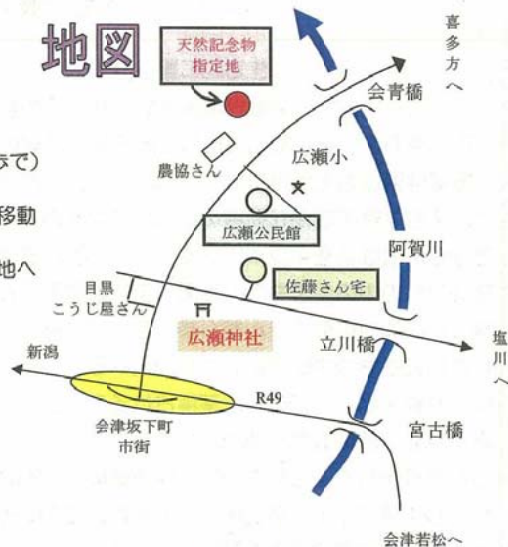
PM1:50 広瀬公民館へ各自車で移動

PM2:00 徒歩で天然記念物指定地へ

PM3:00 広瀬公民館で学習会
質疑応答

PM4:00 閉会・解散

地図



あかかわ 流域学講座

第9回

抱卵斑



子を育てるのは親のつとめ。

その育て方はいろいろだろうが鳥のハナシ。

鳥は卵で子を産む。卵は親の胸・腹に抱かれ温められ孵化する。

少しでも卵に熱が届くようにと、親は胸・腹の毛を薄め自身の肌の温もりをとどける。このときの親の胸・腹に見られる薄い毛の部分を抱卵斑というそうである。親の誇りのしるしである。

トゲチョは年魚、親は卵のうち甲斐甲斐しく面倒をみる。しかし孵化すると親はもういない。こちらは生を尽くしての子育てである。

陸上でも水の中でも命のつながりのために親は斯く生きているのである。

合理・利便・経済・快楽のために、自然の中で育ってきたはずの人間は今、自然を捨てようとしている。自然を捨てるということは親を捨てるということなのに……。

(坂下 諭)



発行「トゲチョ会津ネットワーク」事務局
国土交通省阿賀川河川事務所工務課
NPO法人会津阿賀川流域ネットワーク
〒965-0830 会津若松市西年貢1丁目7番45号

◆2008. 10. 3 発行◆

第8号

本号4ページ

観察会&学習会のお知らせ	1
講演学習活動の報告	2~3
湧水保全フォーラムのお知らせ	3
観察会&学習会（次第・会場案内）	4
あかかわ流域学講座〜カギ裂き〜	4

いろいろなことがありました。
いろいろなことで遅れました。
申し訳ありません。そしてお待ちしました。

観察会と学習会のお知らせです。



いつ
どこで

10月21日 午後1時スタートで
会津坂下町広瀬地区で

エッ? エッエッエッエッ!?
本当??????
イトヨがお家の井戸にいる?
エッエッエッ……。



ということで、三谷集落の佐藤さんの御好意で御自宅の古くよりイトヨの棲む井戸と水路を訪ねます。

また、集落では水環境事業でかつてのイトヨの棲む池づくりや湧水保全を進める広瀬神社の境内を観察します。そのあとに、町天然記念物指定地の青木のイトヨ生息地を観察します。ここは地元の方々がイトヨの減少、湧水量も減少、サギの飛来と頭の痛いことばかりで苦労されているところです。よく観察して下さい。そしてよい知恵を出して下さい。

最後に、広瀬公民館をお借りして、学習会と質疑を行ないます。発表者は国土交通省阿賀川河川事務所 佐々木健一副所長が『何故 川の生きものを知り守るのか』というテーマでお話をされます。ご期待下さい。

次第と場所・地図は4面に……

報告

会では 本年 北会津公民館にて、講演学習をおこないました。

講師には、以前 県会津農林事務所勤務されていた川村勝美先生が（県）天然記念物指定・イトヨ生息地、白山沼改修工事に係る御経験を、また、県立会津大学短期大学部名誉教授の樋幸四郎先生には、水環境と生き物についての関係をわかりやすくお話しをいただきました。

その要旨です。

はじめに、阿賀川河川事務所 柄澤利衛（前）副所長より水環境の大切さのお話して開会されました。続いて二瓶庄栄会長より、小さな生き物を守る視点の継続が大きな自然・水環境を守ることにつながる。との挨拶がありました。



川村 勝美 講師



樋 幸四郎 講師

【北会津・イトヨ池再生考】

川村 勝美 氏

県指定文化財のイトヨ生息地白山沼は当時（平成4年頃以前より）においてイトヨの減少がみられました。その原因は湧水量の減少、水底に溜まるヘドロのような泥の堆積ではと考えられていました。

そこで、この文化財指定地の改修・浚渫などは可能なのか、またその結果、湧水量は増えるのか、もう泥の堆砂はしないのか、そしてそこにイトヨは増えるのか、といった、法的なことをはじめとした越えなければならない難問の解決に向かったの貴重なお話しがありました。

例として…

河岸に生物の発生増殖をうながすような壁面護岸の設置、表層土の再使用による新環境の低減、水草等の移植など技術的なお話しもありました。

今はイトヨも増えていますが、少しずつ泥の堆積がはじまりました。

また、予想通りの湧水量もありません。壊れた自然の再生がいかに大変なのかを話されました。



『環境汚染物質の水環境に及ぼす影響』

～特に水生生物に対する被害～ 樋 幸四郎 氏

水の汚れは全ての生き物に影響を与える。

水の汚れは自然界の融界物質もあるが、その多くは人為によるものである。

汚れをおこす身近なものとしての農薬・洗剤のお話しをされました。

農薬は浸透力を利用したものなので、主目的以外の生物の細胞器官を壊すこと、洗剤は界面活性を利用したもの〔物質の表面に付着するものを遊離させる。だから洗剤は物をキレイにする（汚れを離れさせる。元にもどすだけのこと）〕なので水の中の生きものの表面、または飲みこんだり、吸収したりをする採食や呼吸時に体内に取りこんでしまうことで濃縮がはじまってしまうこと、その濃縮した物質をもつ生物を別の生物が食べる。つまり食物連鎖になり成体に必要としない物質・化合物が体内に蓄積されることによって奇形や生命の維持が懸念される状況を一部の農薬や洗剤はつくってしまったことがあるとお話しがありました。近年においては農薬の洗剤もかつてよりは自然にやさしくはなっているとのことですが、このことは人が利便性を求めた一つの結果であると話されました。



お知らせ

来る 11月5日、6日に新潟県五泉市を会場として、湧水保全フォーラム全国大会が開催されます。

フォーラムは湧水の生物、湧水の恵み、湧水と地域のかかわりなどのテーマで種々の発表が全国よりあります。

当会でも参加を予定していますが、会場や警備の都合上で少人数のみでの発表になりそうですが一般参加にはその枠はありません。

6日のポスターセッション展示会場・五泉市土堀のイバラトミヨ生息地観察などは自由です。奮ってご参加下さい。

